

◆宮古のホテルが寄付
宮古市の浄土ヶ浜パークホテル（松本順社長）は20日、東日本大震災で親を亡くした子どもたちの就学支援へ県が設立した「いわての学び希望基金」に、義援金付き宿泊プランの売り上げの一部52万円余りを寄付した。

関敦彦専務（写真右）が県庁を訪れ、県復興局総務課の宮卓司総括課長に義援金の目録を手渡した。関専務は「多くの方に義援金付きプランを選んでもらい喜んで利用した。長期的な支援に生かしてほしい」と述べた。同ホテルは、代金の5%を同基金に寄付する宿泊プランを8月から販売。9月末までに約千人が利用した。



※岩手日報2011年10月23日掲載

※この記事・写真は岩手日報社の許諾を得て転載しています